

2025 年度東京医科大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)

入学者選抜 第2期

専門科目(がん看護学分野) 出題の意図

がん看護学分野

問題1 がん薬物療法における職業性曝露が医療従事者の健康に及ぼす影響と、推奨される対策について述べなさい。

【出題の意図】

わが国では、がん薬物療法における職業性曝露に関する知識・対策は、この10年間で大きく変化した。本問題では、職業性曝露の健康への影響、推奨される対策に関する基礎的知識を問う。

【解答例】

抗がん薬は、がん細胞の分裂・増殖を妨げることで抗腫瘍効果をもたらすが、正常な細胞にも影響を及ぼすことが知られている。医療従事者は、注射薬の調製・投与時の飛散やこぼれ、経口薬の粉碎時の飛散、投与後の患者の体液や排泄物などへの接触などにより、職業性曝露をするリスクがある。これにより、過敏反応、皮膚・粘膜反応、消化器症状などの急性症状の発現、悪性腫瘍や生殖への影響など長期的な影響の可能性がある。対策としては、ヒエラルキーコントロールに従い、有効性の高いものから順に実施することが求められる。これによると最も効果的な対策は「除去・置換」であるが、がん薬物療法においては、抗がん薬を使わないということを意味し、現実的ではない。そのため、次に効果的なエンジニアリングコントロール、すなわちCSTD(閉鎖式薬物移送システム)を使用した調製・投与を行うことが推奨される。その次に重要なのは、組織管理的コントロールで、組織内で取扱いに関する指針・手順を作成し、職員がこれを遵守することである。PPEの着用は最も効果が低いものに位置づけられるが、抗がん薬調製・投与時の二重手袋、長袖ガウンの着用、呼吸器防護が推奨されている。

問題2 がん治療中の患者の口腔ケアの意義について、化学療法患者、頭頸部がんへの放射線療法患者を例に述べなさい。

【出題の意図】

がん患者がQOLを保ちながら治療を完遂する上で、口腔ケアは重要なセルフケアの一つである。化学療法、放射線療法の代表的な副作用と関連させ、口腔ケアの意義に関する基礎的知識を問う。

【解答例】

化学療法薬のなかでも、とくに細胞障害性抗がん薬は、分裂の盛んな正常細胞にも影響を及ぼすことが知られており、口腔粘膜の細胞はその影響を受けやすい。また、化学療法後は骨髄抑制により易感染状態となるため口内炎を起こしやすい。頭頸部がんへの放射線療法では、照射により、口腔粘膜細胞だけでなく、唾液腺の細胞にも影響を及ぼすことがあり、口腔内の乾燥による自浄作

2025 年度東京医科大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)

入学者選抜 第2期

専門科目(がん看護学分野) 出題の意図

用の低下から口腔粘膜障害を起こしやすい。いずれの場合も、口腔乾燥症、味覚異常を生じやすい。それらの症状は、それ自体不快や苦痛なものであり、さらに食べること、話すことなどを妨げ、QOLにも影響を及ぼしうる。あまりに症状が強い場合は、治療の中断、中止などから治療効果にも影響が及ぶ可能性がある。これらを回避するうえで、適切な口腔ケアの継続により、口腔内の清潔保持、保湿を行うことには大きな意義がある。